

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
22205	病理学 Pathology	山口 央輝			2	必修	2後期

科目の概要

栄養士にとって理解しておくべき幅広い疾患をとりあげ、それらの疾病がどのように発生して、悪化してゆくのか、どのように栄養を摂れば、疾病の発生を予防したり、悪化を防いだりすることができるかを講義する（ディプロマ・ポリシー②、③に相当する）。
 ★医師として、患者を診察治療してきた経験から、種々の疾病の発症メカニズム、臓器の病的変化、栄養面を含む予防対策につき講義をする（ディプロマ・ポリシー②、③に相当する）。
 この授業では、客観的な証拠に基づいて科学的に栄養摂取の判断ができる力およびpisa型学力の獲得をめざす（ディプロマポリシー④に相当する）。

学修内容	到達目標
① 栄養士にとって理解しておくべき疾病の成り立ちを理解する。 ② どのように栄養を摂れば、疾病の発生予防と悪化の防止に役立つかを理解する。	① 栄養士にとって理解しておくべき疾病の成り立ちを説明できる。 ② どのように栄養を摂れば、疾病の発生予防と悪化の防止に役立つのかを、pisa型学力を活かして解決策を説明することができる。④、⑤

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	授業に能動的に参加し、教員と学生との相互の質疑により、双方向での授業を進めることができる。
	働きかけ力	小グループ討論において他者への働きかけをすることができる。
	実行力	テキスト各章末のチェック問題を確認する事で復習をすることができる。
考え抜く力	課題発見力	授業を通して疾患に関連する栄養に関する課題を見つけることができる。
	計画力	テキスト章初めのPointおよび章末チェック問題を確認する事で、学修時間を計画的に確保することができる。
	創造力	教員の出すヒントをもとに自分の考えを創り出すことができる。
チームで働く力	発信力	教員からの質問への的確な回答を、ほかの学生も理解できるように述べることができる。
	傾聴力	授業内容を丁寧に聞き取り理解できるようになる。
	柔軟性	小グループ討論において異なる意見を理解できるようになる。
	状況把握力	小グループ討論において論議の状況を把握することができる。
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行できるようルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	授業に伴うストレスに、計画的学習でコーピングを行うことができる。

テキスト及び参考文献

- ① テキスト 「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち」第3版 田中明、藤岡由夫／編 羊土社
- ② 参考文献 「病気がみえるシリーズ」メディックメディア
- ③ 必要に応じて適宜教材資料も紹介する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連： 生理学、解剖学、解剖生理学実験、生化学、公衆衛生学などが関連する。
 資格との関連： 栄養士

学修上の助言	受講生とのルール
栄養士という職業の専門性に関わる科目である。専門用語が多く難しいと感じることが多いだろうが、学修の成果は将来必ず役に立つものであり、積極的に知識を積み上げて欲しい。	テキスト章初めのPoint を参考に予習して、授業に出席する。毎回の授業後、章末のチェック問題を活用しながら復習する。遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行できるようルールを守ることができる。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	90	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した内容の理解度を、主に選択問題にて評価する。 ・次の到達レベルをもって評価の基準とする。 疾病の成因、症状、診断、治療方法に関する質問の90%以上に正しく解答できる。・・・S 同じく80～89%に正しく解答できる。・・・A 同じく70～79%に正しく解答できる。・・・B 同じく60～69%に正しく解答できる。・・・C Cのレベルに達していない。・・・F
			②	✓	
学修成果	小テスト	0	①		
			②		
学修成果	レポート	0	①		
			②		
学修成果	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①		
			②		
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> （主体性） ・将来、栄養士になって社会に貢献するために、積極的に学ぶことができるようになる。 （実行力） 計画的に学習し、知識を蓄積することができる。 （課題発見力） 授業を通して疾病の予防における栄養学的課題を発見することができる。 （創造力） 授業を通して疾病の予防に関する自分の考えを創り出すことができる。 （傾聴力） 授業に集中し、内容を理解し、要点を記録することができる。 （発信力） 教員からの質問に対し、的確に、他の受講者にも分かるように解答することができる。 （規律性） 遅刻、無断欠席など、学習意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 （ストレスコントロール力） 授業に伴うストレスに対し、計画的学習によりコーピングすることができる。
			②	✓	
総合評価割合		100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S (秀) の基準： 授業で取り上げた疾病の原因、病態、診断、栄養との関わりを説明することができる。</p> <p>A (優) の基準： 授業で取り上げた疾病の原因、病態、栄養との関わりを説明することができる。</p>	<p>B (良) の基準： 授業で取り上げた疾病の原因、栄養との関わりを説明することができる。</p> <p>C (可) の基準： 授業で取り上げた疾病の栄養との関わりを説明することができる。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	イントロダクション 第1章 診断のための身体診察と検査：特に、問診、診察、臨床検査について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	問診や、バイタルサインの重要性を説明できる。	予習：章初めの Point (p. 16) を参考に予習。 復習：章末のチェック問題 (p. 40) を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	第2章 加齢・疾患に伴う変化：特に、老化、炎症、腫瘍について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	老化、炎症、腫瘍の特徴と種類を説明できる。	予習：章初めの Point (p. 41) を参考に予習。 復習：章末のチェック問題 (p. 51) を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	第3章 疾患の治療：特に治療の種類、計画の立案を学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	EBM, インフォームドコンセントについて説明できる。	予習：章初めの Point (p. 51) を参考に予習。 復習：章末のチェック問題 (p. 61) を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	第4章 栄養障害と代謝疾患：特に肥満、脂質異常症、糖尿病について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	脂質異常症、メタボリックシンドローム、糖尿病について、説明できる。	予習：章初めの Point (p. 62) を参考に予習。 復習：章末のチェック問題 (p. 97) を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	第5章 内分泌系疾患：特にホルモンの種類、機能について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	主なホルモンの機能、それらによる疾患について説明できる。	予習：章初めの Point (p. 99) を参考に予習。 復習：章末のチェック問題 (p. 109) を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	第6章 消化器系—消化管疾患：特に消化管における炎症と腫瘍について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	消化管疾患における、炎症性疾患と腫瘍について説明できる。	予習：章初めの Point (p. 111) を参考に予習。 復習：章末のチェック問題 (p. 127) を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	第7章 消化器系—肝・胆・膵疾患：特に肝臓、胆道、膵臓における、炎症、腫瘍について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	肝臓、胆道、膵臓における主な炎症性疾患と腫瘍について説明できる。	予習：章初めの Point (p. 129) を参考に予習。 復習：章末のチェック問題 (p. 147) を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	第8章 循環器系疾患：特に循環動態と動脈硬化について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	動脈硬化と循環器系疾患について、説明できる。	予習：章初めの Point (p. 149) を参考に予習。 復習：章末のチェック問題 (p. 171) を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	第9章 腎・尿路系疾患：特に腎機能と、それらの疾患について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	腎機能、ネフローゼ症候群、CKDについて説明できる。	予習：章初めのPoint(p. 173)を参考に予習。 復習：章末のチェック問題(p. 195)を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	第10章 神経・精神系疾患：特に脳の機能、痴呆症、精神疾患について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	認知症、主な精神疾患について説明できる。	予習：章初めのPoint(p. 197)を参考に予習。 復習：章末のチェック問題(p. 208)を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	第11章 呼吸器系疾患：特に呼吸器の機能とそれらの疾患について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	肺炎、COPD、喘息について説明できる。	予習：章初めのPoint(p. 210)を参考に予習。 復習：章末のチェック問題(p. 223)を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	第12章 血液系疾患：特に血液に含まれる細胞や疾患について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	貧血の種類と特徴を説明できる。	予習：章初めのPoint(p. 225)を参考に予習。 復習：章末のチェック問題(p. 237)を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	第13章 運動器(骨格系)疾患：特に、骨、筋代謝とそれらによる疾患を学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	骨粗しょう症、老化に伴なう機能障害について説明できる。	予習：章初めのPoint(p. 238)を参考に予習。 復習：章末のチェック問題(p. 249)を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	第14章 皮膚系疾患、第15章 免疫・アレルギー系疾患：特に皮膚、免疫の構成について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	褥瘡、アレルギー疾患について説明できる。	予習：章初めのPoint(p. 251, p. 258)を参考に予習。 復習：章末のチェック問題(p. 256, p. 267)を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	第16章 婦人科疾患、第17章 感染症：特に女性特有の疾患と微生物によっておこされる疾患について学修する。	講義 質疑応答にて、フィードバックを行う。	更年期障害と女性特有のガン、食中毒について説明できる。	予習：章初めのPoint(p. 269, p. 280)を参考に予習。 復習：章末のチェック問題(p. 278, p. 290)を参考に復習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力